

はじめに

この研究の契機となったのは「鉄道に対する投資は、どのように行なわれるべきなのか」という問いでした。過去2年間、私たちは整備新幹線と国鉄改革の研究を行ないました。そこでこの問いが解決できませんでした。整備新幹線計画では財源をどうするのかといった問題を先送りしていますし、国鉄の破産の一因は経営を無視した無茶な投資にあったことは明らかであります。そこで、従来では不可能であった地方自治体が鉄道整備に関与している事例に着目し、望ましい鉄道整備のあり方を考えることになりました。その背景には、最近の地方分権化という流れも無関係でないと考え、テーマを決定しました。このテーマに決定したということは、過去の研究の結果からして必然だったのかも知れません。

今年のテーマは先行研究がほとんどないので、研究に入る以前の章割りや結論部をどうするのか、といった問題を解決するのに困難がありました。今までほとんど論じられなかったテーマなので部員一人一人の意見にもばらつきがありました。国鉄改革と地方分権はどのように関係するのか、自治体の鉄道整備への関与を評価するのか、財源はどうするのか等々例年にもまして活発な議論がなされ、共同研究としての方向性ができてきました。

今年の研究に際しては、県庁等への調査など、研究の内容を深める工夫をしました。しかし、なにぶん学生の研究ですので、いたらない点多々あると思います。今後の研究に役立てるためにも、ご意見・ご感想をどしどしお寄せください。

なお、本文中の敬称は略させていただきました。

最後になりましたが、本書発行に際しご協力いただきました三次市役所の方々、OB諸兄の皆様、そして関係者各位に御礼申し上げます。

1995年11月4日 代表者